

北海道のがんデータの基礎となる
精度の高いデータを蓄えていきたい



北海道のがん登録は歴史が古く、昭和47年から登録事業が行われております。1992年からは当時委託業務先であった北海道対がん協会が中心となり、内容の充実と精度の向上を図るため、北海道独自システムへの登録作業が開始され、データベース化が進められてきました。

2009年4月からはがん登録情報の標準化を目的に、標準DBSの導入が進められ、委託業務先が都道府県がん診療連携拠点病院である北海道がんセンター内地域がん登録室に移り、登録作業が進められています。

届出の件数は年々増加しており、届出件数は2009年症例で約35,000件の届出がありましたが、2010年症例では約40,000件弱となり、2011年症例では40,000件を超える届出となりました。

届出件数は年々増加しておりますが、登録室のメンバーが件数増加に伴い増員されておらず、登録件数に対してマンパワー不足が問題となっておりますが、現在登録作業の効率化を図るため、電子データ等による受取や登録作業の見直しなどを行っています。

今後情報の精度を高めるため、遡り調査などの実施が必須であると考えておりますが、こちらも予算やマンパワー不足などの関係から実施には至っておらず、今後の検討課題となっております。

北海道には現在、がん診療連携拠点病院が21施設、がん診療連携指定病院が17施設ありますが、届出件数の約8割が拠点病院及び指定病院からの届出となっております。

今後は一層の協力体制をお願いするとともに、まだ提出のない医療機関へはデータ提出を協力して頂けるよう行政担当と連携しながら、限られた中ではありますが、北海道のがんデータの基礎となる精度の高いデータを蓄えていけるよう今後も登録作業を進めていきたいと思っております。

北海道地域がん登録室メンバー (平成26年6月現在)

地域がん登録室室長 (兼 統括診療部長)	高橋 将人
地域がん登録室係長 (兼 診療情報管理係長)	盛永 剛
地域がん登録室職員 (兼 院内がん登録室職員)	齊藤 真美
地域がん登録室職員 (兼 院内がん登録室職員)	山口 小百合
地域がん登録室 非常勤嘱託員	7名